

卒業生による企業展示（沼津高専同窓会50周年記念事業の一環として）

西田友久^{*1}, 永田千文^{*2}, 長岡善章^{*3}, 山本文昭^{*4}, 井上聰^{*1}, 望月孔二^{*5}, 大庭勝久^{*6}, 芹澤弘秀^{*7}
竹口昌之^{*8}, 青田広史^{*9}, 天野 浩司^{*10}, 渡邊勝之^{*11}, 根岸 祐司^{*12}, 安齋芳之^{*3}, 鈴木誠一^{*13}

Corporate Exhibition by Graduates

Tomohisa NISHIDA^{*1}, Chifumi NAGATA^{*2}, Yoshiaki NAGAOKA^{*3}
Fumiaki YAMAMOTO^{*4}, Satoshi INOUE^{*1}, Kouji MOCHIZUKI^{*5}
Katsuhisa OHBA^{*6}, Hirohide SERIZAWA^{*7}, Masayuki TAKEGUCHI^{*8}
Hiroshi AOTA^{*9}, Hiroshi AMANO^{*10}, Katsuyuki WATANABE^{*11}
Yuji NEGISHI^{*12}, Yoshiyuki ANZAI^{*3}, Seiichi SUZUKI^{*13}

Key Words: Corporate exhibition, School festival, Alumni association, 50th anniversary

1. はじめに

高専5年生の年度初めは誰もが“進路選択”という一生の岐路について真剣に悩み、多くの学生から「将来何をするのかわからない。できれば卒業生の話を聞きたい」などの要望や、保護者からは「会社の名前や製品は知っているが、具体的な仕事内容がわからないので子供にアドバイスができない。」などの声が挙がっていた。一方、沼津高専同窓会では平成29年度に創立50周年を迎えるにあたり記念事業の内容が話題となっていた。そこで記念事業の一環

として、同窓生が中心となる企業展示を提案し、在校生と卒業生との交流の場を設けることができないかと考えた。この企画は“就職説明会”ではなく、卒業生が、“ものづくり”とのかかわりについて、技術者志望の若い学生諸君等に伝え、さらに就職や仕事に関する学生からの質問にそれぞれの経験から直接答えるものとした。展示の内容は、会社概要・主な製品・卒業生の仕事内容・卒業生の役職などとし、その説明者は全て卒業生が行うこととした。

今後、本報告書が同様の企画を開催する際の参考になれば幸いである。

2. 企業展示実施に向けての課題

本校機械工学科は、約10年前の高専祭にて第一体育館の約半面を利用して6社(エッチ・ケー・エス, エミック, 東芝機械, 電業社機械製作所, ビヨンズ, ヤマハ発動機)による同様の展示を行った。その時の展示品にはセスナ機1台, オートバイ3台等の大型製品があり、会場とした第一体育館へのこれら展示品の搬入・搬出は、その立地から大変苦労した。また、体育館が土足厳禁であったことにより集客も困難であった。この経験より、展示会場は搬入・搬出が比較的容易である第二体育館とすることが絶対条件であり、その確保を最優先とした。このことをはじめ、本企画を高専祭と同時開催とする上で課題を以下に挙げる。

- ① 第二体育館の確保
 - ② 学生会の催し物との調整
- 例年、第二体育館は高専祭の前夜祭や雨天用ステージの会場として使用されてきた。この第二体育館を今回の同窓会企画で使用することになると、高専祭の催し物の

*1 機械工学科 Department of Mechanical Engineering

*2 施設係 Facilities Section

*3 高専同窓会役員 Alumni Association Officer

*4 沼津酸素工業株式会社

Numazu Oxygen Industries Co., Ltd

*5 電気電子工学科

Department of Electrical and Electronics Engineering

*6 電子制御工学科

Department of Electronic Control System Engineering

*7 制御情報工学科

Department of Control and Computer Engineering

*8 物質工学科

Department of Chemistry and Biochemistry

*9 技術室 Technical Support Division

*10 株式会社リコー Richo Co., Ltd

*11 株式会社明電舎 MEIDENSHA CORPORATION

*12 東芝機械株式会社 Toshiba Machine Co., Ltd

*13 エステック株式会社 S-tec Co., Ltd

会場を第一体育館に変更することとなる。この場合、第一体育館にステージ設備がないこと、および第一・第二両体育館への十分な電源供給が問題となる。

そのため第二体育館の設営のみならず第一体育館の設営補助も必要となる。

- ③ 開催の規模や参加企業の決定
- ④ 第二体育館の設営（フロアシート、展示ブースなど）
- ⑤ 展示物で必要となる電力の調査および第二体育館の電源確保
- ⑥ 搬入・搬出の方法（展示物の寸法、出入口の寸法、段差、時間、駐車場など）
- ⑦ 会場への集客方法
- ⑧ 見学者の分散化の方策（特定の企業に人が集中せずに分散させる）
- ⑨ 経費（電源工事、第一体育館のステージ設営等の補助、運搬等々の費用）

3. 企業展示までの流れ

平成 28 年

- 8月 同窓会理事会にて同窓会 50 周年記念事業の一環として「卒業生による企業展示」の開催を承認
- 11月 同窓会展示室を高専祭で教室を利用して開催（ここでは過去の同窓会発行物や顕著な活躍をした卒業生のパネル展示などをするとともに、次年度を見込んで展示の内容や規模等について検討）
- 12月 平成 29 年度の高専祭で、第二体育館使用の可能性について学校側に打診

平成 29 年

- 3月 学校側より第二体育館の使用許可を受諾
本校 OB 教職員数名に相談。参加企業の候補や条件について決定
- 5月 卒業生が管理職として在籍している 10 社（NTN, エフ・シー・シー、東芝機械、東レ、富士鋼業、明電舎、浜松ホトニクス、富士鋼業、ヤマハ発動機、リコー）を直接訪問。いずれも参加について了承戴いたため、本格的に展示方法を検討するとともに、同窓会展示ブースのパネル展示等を依頼
- 6月 第一・第二体育館の電源不足と第一体育館のステージ設営の補助について検討
- 7月 企画委員会（各学科から OB 教員各 1 名、OB 職員 2 名、同窓会役員 2 名、企業から 5 名）を発足
- 8月 本企画に 24 社が賛同
各社からの展示内容を公開
- 9月 展示物の寸法等の確認（含：ノベルティー）

体育館内の展示場所の配置等を検討

10月 以下の詳細について調整と確認

- ・体育館設営の詳細を決定（フロアシート、電源、パネル、ブースなど）
- ・展示品などの搬入・搬出時間等の決定
- ・駐車場の確保
- ・参加人数の確定（弁当、懇親会など）

11月

- 1日 パネルの借用および授業終了後の体育館設営
- 2日 展示品の搬入
- 3日 **高専祭当日**：9 時半より開会式と展示（終日）。懇親会の開催（展示終了後 18 時より）
- 4日 **高専祭当日**：展示（終日）、16 時半より閉会式、片付けおよび搬出
- 5・6 日 搬出、机・椅子の片付け、パネル返却

4. 企業展示実施に向けての対応

① 第二体育館の確保

校長、学生主事、学生会顧問、学生会に相談し、平成 28 年度末までに第二体育館の使用許可を得た。

② 学生会の催し物との調整

高専祭前夜祭等のステージ設置に同窓会も協力するが、簡易ステージの購入・設置費用があまりにも高額となるため、学生会には教室で使用している机を整列させた上に構造合板を配置することで了解を得た。電源は第一体育館の使用していなかった予備ブレーカから仮設分電盤（6 系統）を設置することにした。

③ 開催の規模や参加企業の決定

展示ブースへの参加企業としては、卒業生が 10 人以上在籍している静岡県内企業を対象とし、25 社に参加を打診したところ 24 社から参加の回答を得た。このため第二体育館全面を使用し、壁面に沿って企業展示ブース、中央部には大型展示コーナーおよび同窓会関連（顕著な活躍をした卒業生、個人で起業した卒業生など）の展示も予定した。

④ 第二体育館の設営

会場の設営は重要であるので、イベント商社に依頼することも検討したが、高額であったため断念した。そこで就職関連ブース等の企画経験がある業者（高田商会）指導のもと、学生アルバイト約 10 名・教職員 6 名によって設営した。

a. フロアシート：体育館には土足のまま入場できるようフロアシートを図 1 に示すように館全面に敷き詰めた。また、体育館入口から埃等の進入を少しでも

防ぐために玄関マットも用意した。

b. パネル：ブースを区切るパーテーションとしてのパネル 51 台は教員 2 名と学生 1 名で他機関（遺伝学研究所）より高専祭開催 2 日前に借用し、終了翌日に返却した。

c. 展示ブース：ブースの配置は図 2 に示す通りであり、体育館入口付近で乗用車の展示も行った。

企業展示ブースは 1 社 3m 四方とし、基本的には机 3 台と椅子 3 脚を置いた。企業名を記載した模造紙は図 3 に示すように机の前に掲示したが、その前に説明者が立つと見えにくくなるため今後は配置に工夫が必要である。また、図 4 に示すように各社で展示台等を持参することも認めた。

パネルを設置した同窓会展示ブースの一例も図 5 に示す。

⑤ 展示物で必要となる電力の調査および電源の確保

展示に必要な電源はアンケート調査の回答に基づき、既設回路 7 系統（75A）を使用し、不足分（120A）は発電機でまかなうこととした。このため、125A まで供給できる発電機を用意して、図 6 に示す通り、第



図 1 展示前の体育館内

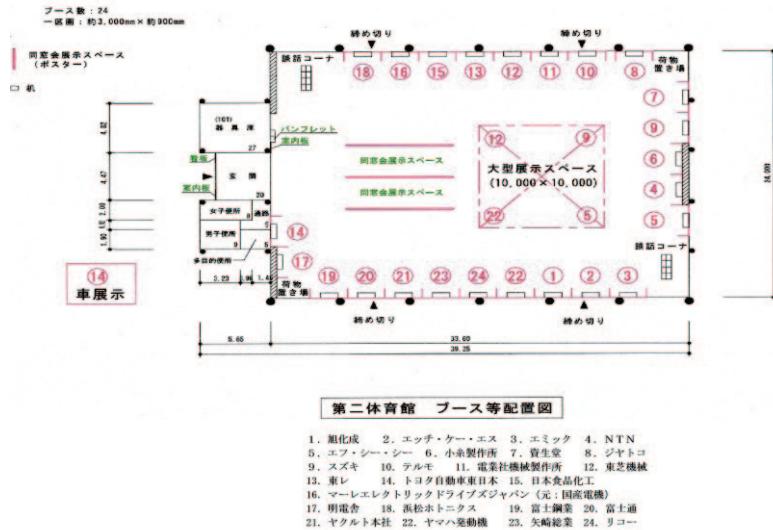


図 2 展示ブースの配置図

二体育館東側の法面下に設置した。これより図 7 に示す第二体育館東側に設置した仮設分電盤を介して各ブースに給電した。なお、発電機などの手配と設置にあたっては沼津酸素工業勤務の本校卒業生に尽力戴いた。

⑥ 搬入・搬出の方法

展示物の寸法・重量等はアンケートにて事前に調査し、展示物の搬入・搬出が、特定の時間帯に集中することによる混乱を避けるため、各社の搬入・搬出時間を設定した。

また、正面玄関から搬入できない展示品は体育館横のスロープから搬入した。さらにスロープからの搬入も難しい展示品については、当該企業により図 8 に示すように第二体育館脇の一般道路から搬入・搬出を行った。なお、体育館保護のため、重量物（300kg 以上）の移動や固定の際に構造合板を使用するよう依頼し



図 3 企業展示ブースの一例（1）



図 4 企業展示ブースの一例（2）



図 5 同窓会展示ブースの一例

た。

⑦ 会場への集客方法

ホームルームや学生玄関への掲示・案内を実施した。高学年の学生には「卒業生からの情報入手の大切さ」について口頭で説明し、積極的に参加することを促した。

来場者誘導の一つの手段として、「沼津高専同窓会 50 周年記念事業：卒業生による企業展示」の横断幕（株式会社リコーによる寄贈）を図 9 に示すように第二体育館入口付近に設置した。また、株式会社ヤクルト本社のご厚意により、同社の製品であるミルージュをご提供戴き、両日とも先着 100 名様に 1 本ずつ無料配布することをパンフレット等で宣伝した。

⑧ 見学者の分散化

見学者が一部の企業に集中しないようするための方策をいくつか検討したが、いずれも見学の自由度を下げることが予想されたため、人の少ないブースには企画委員が見学者を誘導することとした。

⑨ 経費

沼津高専同窓会が設営関連等の経費を負担するが、当初の予算を超過する可能性のある場合は、その都度、同窓会理事会に提案および相談した。

5. 参加企業と当日の様子

本展示への参加企業は次の 24 社である((株)は省略)。

1. 旭化成
2. エッチ・ケー・エス
3. エミック
4. NTN
5. エフ・シー・シー
6. 小糸製作所
7. 資生堂
8. ジヤトコ
9. スズキ
10. テルモ
11. 電業社機械製作所
12. 東芝機械
13. 東レ
14. トヨタ自動車東日本
15. 日本食品化工
16. マーレエレクトリック ドライブズジャパン
17. 明電舎
18. 浜松ホトニクス
19. 富士鋼業
20. 富士通
21. ヤクルト本社
22. ヤマハ発動機
23. 矢崎総業
24. リコー

企業による展示製品は乗用車 1 台、オートバイ 4 台、似顔絵描画デモ、電子ホワイトボード、クラッチ、インバータ、振動試験機等々であり、同窓会のブースでは、社会で活躍している社長・役員、弁理士、会計士、画家、ソムリエや個人起業家のパネル 20 名分と展示品、また、市川良輔名誉教授(故人)が当時の卒業生に送った文章や山岸文明名誉教授の俳句などが多数展示された。

11 月 3 日、4 日の高専祭で 24 企業の展示ブースが第二体育館一杯に並び、来場者は 2 日間で延べ 1500 名を超えた。説明者は全て本校卒業生総勢約 100 名が務め、学生・保護者・一般来場者は、製品やパネルを前に、卒業生によ

る会社での仕事内容や学生・保護者へのアドバイス等を熱心に聞き入っていた。それらの様子を図 10～図 12 に示す。両日とも、来場者は特定の企業に集中することもなく、いずれのブースも賑わっており、会場には 16 時を過ぎても人の出入りが続いていた。



図 6 発電機の設置



図 7 仮設分電盤の設置



図 8 大型展示物の搬入状況



図 9 横断幕の設置

6. 経費

予算は当初 70 万円であり、今回の企画で使用した経費は次に示す通りである。

会場設営費	43 万円
旅費交通費・会議費	14 万円
説明者の昼食代(2 日で延べ 150 人分)	15 万円
その他	2 万円
合計	74 万円



図 10 展示風景 (1)

7. アンケート結果

来場者から回答があったアンケートの結果を図 13～図 16 に示す。図より来場者はおおよそ半数が本校学生、4 分の 1 が保護者であり、「今回の企画が良かった」、「卒業生の活躍を知ることができた」および「今後もこのような企画を継続してほしい」の箇所に、いずれも約 98% の回答があった。

次に在校生・保護者・説明者(卒業生)の意見の中から幾つかを紹介する。

在校生の意見

- ・未来に希望が持てた。
- ・曖昧だった将来像が少し具体化した気がする。自分の将来に向けての良い勉強となった。
- ・卒業生の話を直接聞くことによって、今後の進路について考える良いきっかけとなった。
- ・卒業生の仕事内容（どんな仕事をしているか）の詳細や活躍ぶりを知ることができた。
- ・各会社の説明を聞いて興味を持つとともに、私ももっと勉強しなければと強く感じた。
- ・知らないかった企業も多く、就職の参考になった。 etc.

保護者の意見

- ・社名だけ知っていても、詳しい業務内容等を知らなかつたり、初めて聞く社名もあり、学生だけでなく、保護者にとっても企業を知るとしても良い機会だった。
- ・卒業生の生（なま）の声を聞くことができた。
- ・この企画は待ち望んでいたもので、とても有難い。
- ・数年後がとても楽しみになった。
- ・子供の将来を見たような気分を味わうことができた。

etc.

説明者(卒業生)の意見

- ・在校生の就職（企業）に対する熱意が伝わり、保護者の関心度がとても高いことに驚いた。



図 11 展示風景 (2)



図 12 大型スペースの風景

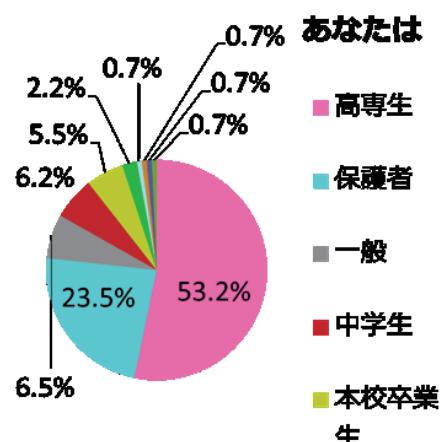


図 13 アンケート結果 (1)

- ・企業の立場でなく、卒業生の立場から後輩に話ができる良かった。
- ・少しでも母校に恩返しする良い機会となった。
- ・職場内の高専OBの方や同級生との交流の場となった。
- ・在校生が、自信をもって説明する先輩たちの姿を見て、『自分もこうなりたい!』とモチベーションアップに繋がれば嬉しい限り!
- etc.

以上より、在校生からは「未来に希望が持てた!」や「将来どのような分野に行けるか良くわかって楽しかった」と前向きの意見が聞かれ、卒業生の話を直接聞くことは将来の職業選択や学習に対する意欲向上に大いに役立ったものと思われる。

8. おわりに

この企業展示では、学生および保護者が卒業生と交流して、先輩たちの詳細な仕事内容や活躍等を知ることにより、勉学や進路に対するモチベーションが向上し、将来に対して鮮明なイメージが湧いたようである。一方、説明者である同窓生からは「在校生・保護者との交流ももちろん良かったが、企業内・会場あるいは懇親会の場を通して同窓生同士が情報交換や昔話に花を咲かせることができた」とも伺っている。これらのことから、学生・保護者、さらには同窓生・教職員にとっても大変有意義な企画であったといえる。

また、大きな問題の一つであった電源関係では、実際に使用された電力は事前調査の希望電力を大きく下回っていた。次回開催する場合は“1社あたりへの供給電力を定め、それを上回る場合は発電機を持参して戴く”などの対応が望ましいであろう。

今後も規模の大小にかかわらず、「在校生・保護者と卒業生が気軽に交流できる場を計画していきたい」と考えている。

謝辞

2日間を通して、事故もなく素晴らしい展示ができましたのは、1500人以上の来場者、快く出展・参加戴いた静岡県内企業24社、ならびに個人起業の方々のお蔭です。厚く御礼申し上げます。

特に、高専祭当日は多くの卒業生にボランティアで熱心に企業説明して戴きましたこと、心から感謝申し上げます。

来場していかがでしたか?

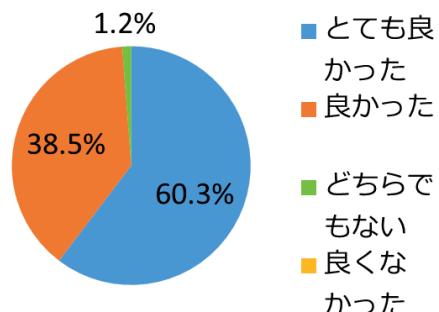


図14 アンケート結果(2)

卒業生の活躍を知ることができましたか?

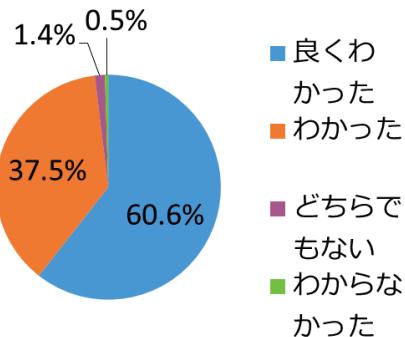


図15 アンケート結果(3)

今後も継続を希望しますか?

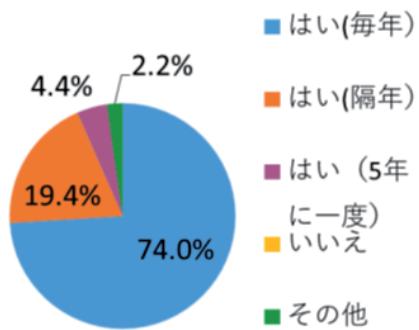


図16 アンケート結果(4)